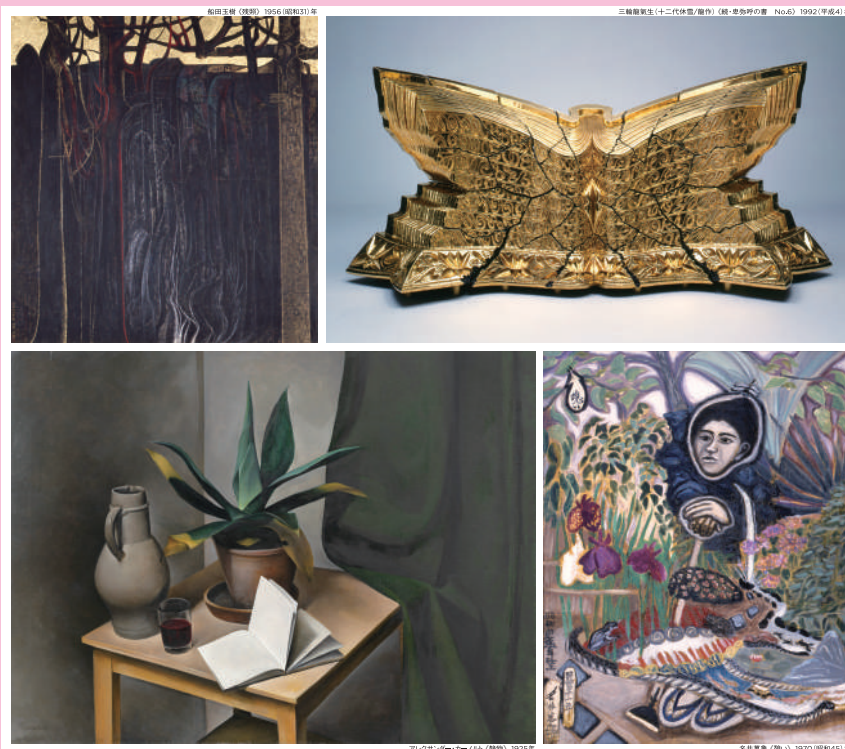


COLLECTION EXHIBITION

現実と非現実の

狭間で



In the Gap Between
the Real and the Unreal

2025 4 | 19 (土) ▶ 7 | 21 (月祝)

[開館時間] 9:00~17:00 ※金曜日は20:00まで開館 ※入場は閉館の30分前まで
[休館日] 月曜日(特別展の会期中を除く)、6月2日は展示替えのため閉室
[入館料] 一般510(410)円／大学生310(250)円 ※ ()内は20名以上の団体
[縮景園共通券] 一般660円／大学生350円 ※特別展は別料金
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
◎障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリートークデー

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！
4 | 20 (日)
5 | 18 (日)
6 | 15 (日)
7 | 20 (日)

所蔵作品展

第 1 期

<https://www.hpam.jp/>



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

〒730-0014 広島市東区上郷町2-22
tel.082-221-6236 fax.082-223-4444

【概要】

所蔵作品展 第Ⅰ期 「現実と非現実の狭間で」

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数 5,200 点を超えています。

さて、今年 1-3 月の LED 化工事を経て、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、特別展「生誕 120 周年サルバドール・ダリー天才の秘密ー」に連動した「現実と非現実の狭間で」の 2 本立てとし、当館コレクションを新たな視点でご紹介いたします。

皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーやリレートーク、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、今年度はフリートークデーを毎月第 3 日曜日に実施いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

【第Ⅰ展示室】

展示室の中での西洋美術と工芸の偶然の出会い

「解剖台の上でミシンとこうもり傘が偶然出会ったように美しい。」

これは、ロートレアモン伯爵（本名イジドル・デュカス 1846-1870）が著した散文詩集『マルドロールの歌』の一節です。1920 年代、シュルレアリスム（超現実主義）のグループは、異質なものの同士の繋がりに「^{けいれん}痙攣的な美」を見出しました。『マルドロールの歌』は、彼ら

に大きな影響を与え、先の一節はシュルレアリスム運動そのものを象徴する常套句にもなりました。

通常、本展示室では、シュルレアリスムを代表する画家であるサルバドール・ダリの大
作《ヴィーナスの夢》を展示しておりますが、特別展「生誕 120 周年 サルバドール・ダリ
ー天才の秘密ー」(4/15-6/8 3階特別展示室)への出品のため、普段は横に並ぶことのない、
当館の西洋美術作品と工芸作品とを特別に併置し、シュルレアリスム的な出会いを演出し
ます。

発芽する植物を想起させるジャン・アルプの《目覚め》と八木一夫^{やぎかずお}《発芽の様相》のように、
主題に共通性が見られる作品のほか、様々な出会いによって織りなされる少しシュールな
空間をどうぞお楽しみください。



アレクサンダー・カーノルト《静物》1925年

【第2展示室】

日本洋画の中での現実と非現実の偶然の出会い

この展示室では、いったい何を描いているのだろう、どうしてこんな風に表現すること
を思いついたのだろう？と、いろいろな疑問がわく作品を集めてみました。

100年以上も前にモンタージュの手法でユートピアを描こうとした小林千古^{こばやしせんこ}。戦時下の
制約の中でも自分らしい表現を求め続けた山路商^{やまじしょう}。核実験から感じ取った人間の残虐性を

お伽噺のように描き出した名井萬亀^{ない まき}。同時代の社会問題を様々な手法で表現した灰谷正夫^{はいたにまさ お}。あるいは、1950年代からパリを拠点に抽象画家として活躍した菅井汲^{すが いくみ}。そして、広島に暮らしながら独自の絵画世界を現在も発信し続ける槇原慶喜^{まきはらけい き}など、その不思議さにも作品ごとに特徴があり、世界観や表現手法など様ざまな点で大きく異なることに驚かされます。

そこで、いつもよりも一点いってん、描かれた世界にゆっくりと入っていくことができるよう、ゆったりとした作品配置を目指しました。ぜひ普段よりも時間をかけてご鑑賞ください。



名井萬亀《憩い》1970（昭和45）年

【第3展示室】

日本画の中での現実と非現実の偶然の出会い

この展示室では、日本画表現における現実と非現実の狭間を覗いてみましょう。

そもそも、日本画では近代以前において現実—例えば実在する風景や人の営みを描くことは稀でした。風景であれば仙人が住む理想の世界を、花であれば様式美を描くのが基本姿勢です。しかし、近代以降、西洋からの影響により写実的な風景画が描かれるようになりました。さらに、終戦後には社会の急激な変化により「日本画滅亡論」が唱えられ、「生活を描かないこと」が問題とされました。平和な日常を描いた平山郁夫^{ひらやまいく お}《ひととき（憩）》は、そのような時代背景を想起させます。



船田玉樹《残照》1956（昭和31）年

次に、「現実」と「非現実」の狭間にはどのような表現があるでしょうか。ここでは、背景が無地や金地の作品を紹介しました。無地や金地の中に写実的なモチーフを配することで、対象の象徴性が高まったり、空間の広がりが強調されたりする効果が感じられます。

最後に、非現実的な表現として、シュルレアリスムの画家、マックス・エルンストの影響を受けた^{ふな だぎよくじゅ}船田玉樹《残照》や不思議な雰囲気作品介绍しています。

どれほど写実的に描いたとしても表現である以上、現実そのものではありません。表現の不思議にも想いを馳せてお楽しみください。

【第4展示室】

工芸の中での現実と非現実の偶然の出会い

この展示室では、非現実的と思えるような表現を取り入れた工芸作品を、2つのテーマによってご紹介します。

最初に並ぶのは、器物でありながら人間や動物のように振る舞う作品です。^{はやしひでゆき}林秀行の《饒舌》^{じょうぜつ}は、受話器の中央にピンク色の口紅をつけたような“口”があり、まるで二つの受話器がおしゃべりをしているかのよう。^{み わりゅうきしろう}三輪龍氣生(十二代休雪 / 龍作)の《続・卑弥呼の書 No.6》は、翼を広げるように書物の頁が開いています。非現実的な存在による、ユーモラスで少し不気味な世界をお楽しみください。



三輪龍氣生(十二代休雪 - 龍作)《続・卑弥呼の書 No.6》
1992(平成4)年

続いては、顔や眼、お腹など、人体をモチーフにした作品です。^{さとうさとし}佐藤敏の《バットマン》は、割れた顔の隙間から、さらに小さな顔が覗き、^{くまくらじゅんきち}熊倉順吉の《自暴自棄》は、顔があるべき位置に握りこぶしが据えられています。こうした、現実にはあり得ない人物表現は、不安や怒りといった人間の内面を、あぶり出しているかのようにも思えます。

非現実的な造形作品をたよりに、想像力や好奇心を広げる機会にしていただければ幸いです。

【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、令和 3 年秋に新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいえるべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせん こ みなみくんぞう あいみつ小林千古・南薫造・霞光、日本画家のこだま きばう おくだ げんそう ひらやま いくお児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家のひらくしでんちゅう平櫛田中・えんつば かつぞう圓鰐勝三、工芸作家のろっかく しすい六角紫水・しみず なんざん清水南山・いまい まさゆき今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1 階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。

日時：2025年5月16日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）、角田 新（当館学芸員）、
神内 有理（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場入口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約15分間）

①西洋美術：2025年5月13日（火）17:00～ 講師：山下 寿水（当館主任学芸員）

②日本洋画：2025年6月3日（火）17:00～ 講師：角田 新（当館学芸員）

③日本画：2025年6月24日（火）17:00～ 講師：神内 有理（当館主任学芸員）

④工芸：2025年7月8日（火）17:00～ 講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

公式Instagramはこちら



■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

日時：2025年5月18日（日）13:00～14:00

場所：2階展示室

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）

※事前申込制 ※要入館券、2階展示室入口にお集まりください。〔定員8名〕

■フリートークデー

2025 年4月 20 日（日）、5月 18 日（日）、
6月 15 日（日）、7月 20 日（日）
9:00 ～ 17:00



子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく観覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品プリントか、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30 名

※事前申込不要 ※要入館券

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内有理

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

